

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部長兼周産期センター新生児医療センター長兼新生児部長	和田 芳郎
医 長	山本 昌周
医 長	三原 聖子
副医長	山本 真也
副医長	木村 幸嗣
非常勤医員	住田 裕
非常勤医員	浦上 裕行

—概要—

本年度のスタッフは、常勤医5名、1年目専攻医1名、非常勤医師1名の計7名である。日本小児科学会が専門医研修制度を変更して4年目となる。当院は、阪大小児科プログラムに属しており、専攻医(2年間の初期研修を終えた卒後3年目以降の研修医)はまず基幹病院(大学病院等)に入り、必要に応じて関連病院で研修を行う制度である。基幹病院にどれだけの専攻医が入るかによって、関連病院に出る人数の比率が変わる。つまり、基幹病院プログラム専攻医の総人数が少なければ、基幹病院内での研修を優先するため、外に出せない実情がある。今後も、小児科専攻医をコンスタントにりんくうに確保できるか保証はない。阪大自体が大阪府の北部に位置するため、大阪府南部に位置するりんくうにはなかなか人を送りにくいと言われる。その為、2019年度から大阪市立大学小児科研修プログラムにも参加している。

外来診療は、2013年度から1名の小児科医が外来専従で応援に入ってくれたこともあって、午前の一般診療は月曜～金曜まで2診制を確保し、火曜以外は3診制である。その他、慢性外来、1ヶ月健診、生後2週健診、専門外来として循環器外来(第2金曜、完全予約制)を行っている。RSウイルス流行期間中(当センターでは10月から翌年3月まで)第1、3金曜日にシナジスを該当児に接種している。NICU退院児の超低出生体重児を対象とした発達検査も市の子育て支援課の協力を得て、月1回継続的に実施している。

泉州二次医療圏における小児救急医療体制に関しては、2006年11月3日にオープンした泉州北部小児初期救急広域センター(日曜、祝日、年末年始、の9:00～22:00、土曜の17:00～22:00)がその主たる機能を維持している。入院が必要と思われる患児は、その診療時間帯に後送病院として、輪番制で行っている泉州地区6病院(和泉市立総合医療センター、泉大津市立病院、市立岸和田市民病院、市立貝塚病院、りんくう総合医療センター、阪南市民病院)に紹介され、そこで最終的に入院の可否が決定される。2019年度から岸和田徳洲会病院がスタッフ減少を理由に輪番制から撤退し、残り6病院の負担増となっている。加えて、消防隊か

らの救急車による搬送も輪番病院に集められる。広域センターの業務終了後、23時以降は、その日の輪番病院で従来の夜間小児救急が行われている。また、2014年4月5日から、旧泉佐野・熊取・田尻休日診療所が泉州南部初期急病センター(日曜、祝日、年末年始、の10:00～17:00、土曜の18:00～21:00、木曜の20:00～23:00)に名称を変え、泉佐野市りんくう往来北に移転し、夜間休日小児救急医療の一端を担っている。当院の小児救急輪番担当日は、毎月偶数週の日曜日17:00～23:00が広域センターからの後送病院担当、同23:00～翌6:00が一次救急診療対応時間帯である。

地域保健として、市町村の乳幼児健診に出務している。泉佐野市の4ヶ月健診に各月1回、熊取町の4ヶ月健診に年6回、同1才半健診に年4回、田尻町の5ヶ月健診に年6回、泉南市の4ヶ月健診に月1回、同二次健診に年6回、常勤・非常勤医師が出務している。

泉州南部初期急病センターでは、泉佐野泉南医師会から参加できる小児科医の減少により、その維持が困難となり、かなりの比率で近大医学部小児科、大阪母子医療センター、阪南市民病院、りんくう総合医療センターが担当している。当センター小児科医は第2・3土曜日18～21時を担当しており、出務回数は年20回以上に及んでいる。

公的乳幼児健診に従事する医師不足解消の方策の一つとして2016年4月から開始となった、合同二次健診(すこやか健診)は泉佐野市、泉南市、熊取町、田尻町の2市2町の二次健診を月1回、りんくう総合医療センターに隣接する教育研修棟(サザンウィズ)2階に健診会場を設営し、医師3名(りんくう総合医療センター小児科2名、医師会1名)、保健師、助産師、看護師、栄養士、事務の参加を得て、毎月第2木曜に行っている。

当センター出生児を対象に定期接種、任意接種を行っている。委託契約は貝塚市、泉佐野市、泉南市、熊取町、田尻町、阪南市、岬町である。BCG、子宮頸癌ワクチンは対象外であり、2歳以上の定期接種は行っていない。

この様に、当センターの小児科医は病院内に限らず、地域医療・保健事業にも幅広く携わっている。

—実績—

2020年度の実績は、コロナ禍にあって、外来、入院ともに、患者数は減少した。一年間の外来受診患者(生後2週健診、1ヶ月健診、予防接種を含む)の延べ数(輪番救急外来受診患者を除く)は7,645人、月平均637人、2019年度の受診児数が11,299人、月平均約940人であり、約7割に減少した。

泉州医療圏の夜間休日小児救急輪番の受診児数は、198人で昨年度の506人に比べて、4割に減少した(表1)。入院児数は9人で昨年度45人と比べて2割に減少した。

小児科一般病室の入院患者数は延べ92人、昨年度の3割程度にまで減少した。輪番救急外来からの入院児がのべ入院患者数に占める割合は約10%(9人/92人)で、昨年度15%、一昨年は11.5%で、この点は、大きく変化はなかった。

病診連携によって紹介された患者の入院数は45人(49%)で、昨年度82人(29%)より、絶対数は5割減で留まり、のべ入院児数に対する割合は49%と増加していた。

のべ入院児数に対する救急外来からの入院児数が10～15%で数年が変わらず、しかし、他院から紹介入院患者の割合は増加していたことから、患者数の減少は、日常の感染対策の効果で、インフルエンザやRSウイルス等の流行が起こらず、上気道炎、肺炎等の急性疾患に罹患する子どもの絶対数が減少したことに加えて、当科においては、コロナ禍における受診控えも考えられた。

表1 夜間休日小児救急輪番受診児数(2020年度)

	2次救急 (9時～17時)*	2次救急 (17時～23時)	1次救急 (23時以降)	計
受診児数	15	43	140	198
救急搬送	8	36	22	66
紹介児数	7	6	0	13
入院児数	2(13%)	5(12%)	2(1.4%)	9(4.5%)

*月1回担当

—今年度の成果と反省点・来年度への抱負—

新型コロナウイルス感染症に大きく影響された1年であった。外来入院ともに患者数が減少し、第1回の緊急事態宣言が発出された後の4・5月は、外来新規患者数が1日5人未満が続き、小児科研修にも窮する状態であった。当科では、受診控えも考えられるが、全般的には、ソーシャルディスタンス、マスク、手洗い等、感

染予防策の励行で、感染症が流行しなかった影響が大きい。従来の感染症が、日常の予防にて、実際に、封じ込められたことで、コロナ禍終焉後も、以前のような感染症中心の一般小児科診療には、もどらないとの見方もある。

新型コロナウイルス感染症流行により、厚生労働省は、特例として、初診からオンライン診療を認めた。当科は11月より、毎週木曜日午前中に初診にも対応するオンライン診療外来を開設したが、周知が不十分であるためか、対面診療を希望されるご家族が多いためか、受診のない状況が続いている。今後、オンライン診療が可能な曜日を増やす、周知方法を検討する、等対応していく必要がある。

以前より、地域でニーズのあった、発達相談外来を、泉佐野市健康推進課からの紹介予約という形で毎月2名枠で開始した。受診には、同課からの紹介状(市で実施した新版K式発達検査結果含む)と予約が必要である(医療機関からは受け付けていない)。泉佐野市発達相談でフォローされている子ども達が対象で、本年度は、初診で18名が受診し、その後フォローしている。ご家族への説明と、その内容を健康推進課へ伝え、医療と保健・福祉が協働して、地域での療育・支援に活用していくことが目的で、徐々に対象地域を広げていく予定である。

医師の確保についての方策は、当センターで研修をした医師達が小児科専門医となり再び戻ってきてもらえるよう、限られた人数ではあるが臨床面でのアクティビティを落とさないこと、その経験を学会、研究会、論文等で報告して、知名度を上げること、新生児医療と一般小児科診療をバランスよく研修できる施設として、阪大・大阪市大プログラムで地道にアピールしていくことであろう。劇的な打開策はない。

表2 入院児主診断名

感染症・寄生虫症	
EBウイルス伝染性単核症	1
RSウイルス感染症	1
アデノウイルス感染症	3
細菌感染症	1
突発性発疹	2
敗血症	1
周産期疾患・先天異常・保育	
極出生体重児	1
新生児黄疸	10
重度低酸素性虚血性脳症	2
血液・造血器・免疫疾患	
赤芽球ろう	1
筋骨格系・結合組織疾患	
川崎病	13

神経系・感覚器疾患	
無熱性痙攣	1
痙攣	1
痙攣重積発作	3
消化器疾患	
虫垂炎	4
腸重積再発	1
腎尿路・生殖器疾患	
急性腎盂腎炎	1
尿路感染症	2
内分泌代謝疾患・栄養障害	
ケトン性低血糖症	1
成長ホルモン分泌不全性低身長症	4
脱水症	4
低身長症	1

呼吸器疾患	
RSウイルス細気管支炎	1
咽頭炎	2
気管支炎	4
気管支肺炎	7
気管支喘息	5
急性上気道炎	6
咽後膿瘍	1
急性呼吸器感染症	1
扁桃炎	1
感冒	2
損傷・中毒・アレルギー	
口腔内裂挫創	1
頭部外傷	1
食物アレルギー	1
合計	93
紹介入院	45
紹介入院率	48.1%